

学校教育目標	高い志をもち 夢の実現に向けてたくましく生きる児童の育成
経営理念	使命・存在意義 学校に関わる人が幸せになるための仕組みになる。人が輝き、心が動く学校を創る。大切な人に誇れる学校であり続ける。
中心価値・行動規範	Act Boldly ■大胆に行動する Build Equal Trust ■信頼し、信頼される Create the First ■はじめてをつくる Do a Professional Work ■プロフェッショナルであれ Express as a Team ■チームとして取り組む

現状と今年度の重点	<p>本校は、「広島県小学校教科担任制推進事業」「広島県小・中・義務教育学校生徒指導サポート実践校事業」「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受け、実践的な研究を進めてきた。学習指導では、TKFモデル「T・創る」「K・語る」「F・振り返る」を児童主体の学びを促す授業研究の枠組みとして国語科に援用し、話し合いのコツ等により児童の思考力・表現力は高まりを見せている。また、生徒指導では、中間的集団を承認する活動や、課題を有する児童への言葉掛けや支援の仕方等を工夫した結果、生徒指導上の課題は減少している。働き方では、学年主任会で当面する課題を検討し、分掌部では少人数で継続的な課題に対応するなど、コアチームで取組を進めている。教職員のエンゲージメントは年々向上し、在校時間は縮減している。しかし、学習指導では、国語科で培った対話活動を他教科等に広げる取組や、理科の学習に課題があり、生徒指導では、困難な状況に有する児童が自分らしく学校生活を送るための環境が十分ではない。教職員においては、児童のエージェンシーを育てるために、教職員自身のエージェンシーを高めることが重要である。働き方では、学校経営に参画文化と仕組みを創るために、継続的に組織開発を進める必要がある。令和4年度の成果と課題を踏まえ、本年度は7つの事業を学校評価の対象として学校経営を進める。</p> <p>(1)学力向上充実事業 ファシリテーションによる児童の思考の流れを繋ぐ、TKFモデルの活用と充実 (2)家庭学習充実事業 メタ認知を取り入れた家庭学習の質的な向上と、児童の自主学習のデザインの支援 (3)生徒指導充実事業 課題予防的な生徒指導と、個人と集団のウェルビーイングを高める環境づくり (4)絆づくり推進事業 学級活動や児童会活動、異学年交流等による自己効力感の向上とエージェンシーの育成 (5)体力づくり充実事業 継続的な体力の向上と、運動に親しみ課題を達成する楽しさを実感する活動の導入 (6)業務改善推進事業 チームの協働的・創発的な業務の遂行による個の職能成長と組織の成熟の促進 (7)働く人支援充実事業 心理的安全性の高い職場づくりと、自己を受容しお互いを尊敬する働き方の更新</p>
-----------	--

	評価計画				自己評価						・手立ての達成状況 ◇来年度に向けて	評価 適正○ 不適正×	ご意見			
	中期経営目標	短期経営目標	担当	達成目標	8月			1月								
					目標値	達成値	達成度	評価	達成値	達成度				評価		
確かな学力	指導の個別化により、基礎的な知識・技能を習得させ、「書くこと」を重視し思考力・判断力・表現力を育成する。	ファシリテーションによる授業改善と、学習状況のモニタリングを通して、基礎学力の定着と活用する力の向上を図る。	学力向上充実事業	基礎的な技能を身に付け、文章の内容を読み取ることのできる児童を育成する。	国語科「読むこと」領域のテストの達成率80%以上の児童を85%にする。	85%	70%	82%	B	85%	85%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科「読むこと」領域のテストの達成率80%以上の児童は全体では85%だった。1年生93%、2年94%、3年81%、4年83%、5年80%、6年81%だった。前期と比較すると、70%から85%と向上した。前期に比べて難易度の違いを加味しても高い水準を保っているのではないかと考える。</li> <li>・ブロックによる授業研究を2・3学期合わせて、5回実施した。</li> <li>・昨年度までは、読解力を育成するドリルを使っていたが、文章に苦手意識を持つ児童が多かった。だから、今年度は、読むことに興味をもつことができるドリルに変更し、取り組んだ。それによって、「読む」ことに親しみをもつことができた。</li> <li>◇来年度に向けて</li> <li>・1・2年生のドリルの選定を行う必要がある。(低学年のドリルの内容が難しく、取り組みづらかった等の意見があったため)また、3年生以上の学年は、意欲的に取り組み、読むことに親しみをもつことができた。・来年度も継続して、計画的に研修を実施していく。</li> </ul>	○	・基礎の繰り返しと本を読み読解力を身に付けてほしいと思います。 ・焦点が絞られていて分かりやすい評価になっています。 ・しっかりと学べる環境を整えておられるのが素晴らしいです。 ・児童が意欲的に授業に取り組むには、指導者自身が楽しんで授業に取り組むことが一番だと思う。指導者が楽しめない授業は児童も楽しめない。今後もそのような授業づくりを期待する。	
		メタ認知を取り入れ、児童が自分で家庭学習をデザインし、主体的な学びや深い学びを促す支援を行う。	家庭学習充実事業	家庭学習を量から質へ変換し、児童の学習の進捗や認知スタイルに応じた家庭学習、メタ認知を取り入れたドリル学習、ニーズに応じてデザインした自主学習ができるようにする。	・児童アンケート「『自分で学ぶ力』をつけるために家庭学習に取り組んでいる。」の項目の評定値を3.5以上にする。 ・i-checkの学習習慣に関する項目の肯定的回答の割合を60%以上にする。	3.50 60%	3.13 49%	89% 82%	B B	3.25 49%	93% 82%	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習については、ロイノートを活用し、各学級の自主学習の実態を確認した。また、自主学習の内容ではなく手立てについて、職員でアイデアを出し合い、交流し、今後の指導に生かした。</li> <li>・3学期末には、次年度に向けて自主学習の取組状況についてまとめる。</li> <li>◇家庭学習や学習習慣については、学校で指導をするものの、改善につなげることが難しかった。そのため、次年度は自分に合った内容や方法を選択しながら学習する力を身につけさせることを目標に、事業を再検討する。</li> </ul>	○	・上手にタブレットを使って知識を広げて友達と共有されていると思います。 ・家庭学習課題の示し方に工夫が見られます。 ・ドリルを変更し、子どもの姿に合わせ柔軟に対応されているのが素敵です。	
豊かな心	社会規範を尊重し、所属意識を高める指導により、児童の自己効力感を高め、お互いを大切にする人間関係を育成する。	社会生活に繋がる自律に向けて、児童の抱える多様な状況に応じて、個人と集団のウェルビーイングを高める。	生徒指導充実事業	児童が安心できる環境を整え、支える指導を通して、児童の自己肯定感を育てる。	i-check「自己肯定感の項目」の割合を78%、「他者からの評価」を65%にする。  (改) 児童アンケート「自分には得意なことやいい所がある。」の項目を90%、「学校が楽しい。」の項目を90%以上にする。	65%	90%	90.7%	100%	A	92.2%	102%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の児童アンケート、「自分には得意なことやいい所がある」の項目で90.1%の児童が肯定的に答えていた。7月に行ったアンケートの同項目では、90.7%、1月に行ったアンケートの同項目では、92.2%の児童が肯定的に答えていた。</li> <li>・なかよしアンケートにおいて、「学校が楽しい」の項目で1学期は95.7%、2学期は95.5%の児童が肯定的に答えていた。</li> <li>・7月には、七夕の企画を委員会で計画し、友達の良いところや友達でくれてうれしかったことなどを短冊に書いたものを募集し、児童玄関に飾った。クリスマスには、クラスのいいところを動画で発表する企画を考えたが、実施することができなかった。</li> <li>◇今年度の評価指標は、客観的評価ができていなかったことから、次年度の評価指標は、令和6年度学習意識等調査の結果を基に目標値を設定しようと考えている。</li> </ul>	○	・自分では気が付かない自分の利点があります。他者と教え合うのも良いと思います。 ・これだけの児童数の中で自己肯定感の割合が高く学校が楽しいといえることに感心しました。 ・児童の作品があらゆるところに掲示され素晴らしい。児童が他の作品を目にすることができ、それによって学び合い、自己肯定感にもつながる良いアイデアだった。 ・他者からの評価は、より高い指標値でも良いと思います。
		児童が責任をもって協働する異年齢交流や全校活動、学年活動や学級活動等を通して、エージェンシーを育てる。	絆づくり推進事業	自伸会目標を達成するために取り組むことで、自ら学校をより良くしていくようとする態度を育てる。	月に1回以上、自伸会目標達成に向けて、自伸会執行部が具体的な取組を考案し、それに学校全体で取り組む。  児童アンケート「誰かのためにがんばってよかったなと思ったことがある。」について肯定的回答の評定を3.0以上にする。	月1回 3.0	100% 3.4	100% 113%	A	100% 3.5	100% 116%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を大幅に上回った。委員会を再編したことにより、子どもたちが意欲的に委員会活動に参加することができた。それにより、アンケートの項目「誰かのためにがんばってよかったな、と思ったことがある」への肯定的回答が増加した。再編前の7月と再編後2月を比較してみると、5年生は、93.5%→97.6%6年生は91.7%→93.4%であった。</li> <li>◇子どもの自治的な活動の推進が主だったため、事業の名前変更を検討する。</li> </ul>	○	・児童、保護者、地域等とのつながりを大切に、さらに拡げてもらいたい。手紙等の掲示が多く、つながりを重視されていることが伝わった。 ・自伸会の活動により児童の自立が促されています。 ・自園でも子供の主体性を高める保育を目指しており、心が育つ保育に努めたいと思いました。 ・お互いを大切に誰にでも楽しく学べる場所が必要だと思います。	
健やかな体	継続的で個別最適な体力づくりの推進により、健康・安全で活力ある学校生活を送る。	児童個々の運動量を確保する活動を通年で計画し、課題を達成する楽しさを実感し、体力の向上を図る。	体力づくり充実事業	積極的に体を動かすことを楽しむ児童を育成する。	児童アンケート「すずんで体を動かしている」と肯定的に答える児童の割合を3.5以上にする。  (改)「休憩時間や体育の時間にすずんで体を動かしている」と答える児童の割合を3.5以上にする。	3.50	3.06	67.9%	C	3.25	80.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価3.06最終評価3.25だった。後期は体育委員会を中心に「縄跳びカード」の取組を実施した。わずかに伸びたが、目標を達成することができなかった。夏は熱中症の危険があり外遊びができない、冬は寒さで外遊びの児童が減るなど、外遊びは気候によって左右されるため、体育の授業を有効に活用し、児童の意欲や体力づくりをする必要がある。</li> <li>◇楽しく体を動かせるような運動を、授業の準備体操等に取り入れる。</li> <li>◇児童の体力づくりへの意欲を向上させるための授業づくりの職員研修を実施する。</li> <li>◇全学年体力テストを行い、その結果を保護者にも共有する。(授業の中にも体力テストの内容を取り入れる)</li> </ul>	○	・小学生はまず元気で遊ぶことが大切です。遊具の充実が必要です。 ・体力の具体的な数値で見ることできるかと思えます。 ・目標値には達していないけれど中間評価から最終評価の値が向上しているので、今後も少しずつ高まっていくのではと思います。	
		チームワークを実践し、中期的な視点で協働的に業務を進め、深掘りと探索による職能成長を図る。	業務改善推進事業	チームが機能するように協働的に業務を進め、自らの職能成長を図る教職員を育成する。	教職員アンケート「①自分の校務分掌を進んで果たし、学校経営に参画しようとしている」「②学校は、業務の在り方を見直し、業務改善が進んでいる」「③自分は、働き方の課題を見直し、自らの働き方を変えようとしている」の項目の評定値を3.3以上にする。	3.30	3.21	97.3%	B	3.23	97.8%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート結果は①3.09②3.41③3.18であり、平均3.23であった。・少人数のチームで企画を考えることで、自分の考えを施策につなげることができ、チームとしての気付きやアイデアが学校全体の变化を生むことにもつながっている。(児童主体の避難訓練、委員会の再編等)</li> <li>◇教職員間で各事業内容の見直しを行う。</li> <li>◇各事業の経過が共有できるよう、進捗状況や取組に対する意見を交流できる仕組みづくりを進める。</li> </ul>	○	・チームの機能化が十分に図られて素晴らしいと思います。 ・チームで企画を考えたりする取組がおもしろいと感じました。 ・言葉にはさまざまな意味があり、発信する場面によって意味合いが違ってくる。教職員間で理解し、発信していくことが必要。	
信頼される学校	学校・家庭・地域との連携を深め、十日市らしさと人間性を向上する学校づくりを進める。	教職員がスモールインベーターとなり、お互いを尊敬し、対話を導いて個の成長と組織の成熟を促す働き方を進める。	働く人支援充実事業	組織の生産性を高め、教職員が主体的に考え、交感しながら行動できる。	教職員アンケートのエンゲージメントに係る9項目の評定値を3.3以上にする。	3.30	3.14	95.2%	B	3.16	95.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評定値3.3以上の項目は、「学校の仕事にやりがいを感じている」「上司や同僚と良好な関係を築いている」「組織風土は自分にとって良い状態である」等の5項目(11項目中)であった。職場環境として満足している職員は多い。「仕事を通して自分は成長していると感じている」の項目の評定値は3.24であり、わずかに目標を達成できなかった。それぞれの取組が個々の職能成長の実感には繋がらなかった。・勤務時間外在校時間については、月1回の衛生委員会でのいろいろな角度から分析し、業務改善に生かすことができるアイデアを即実践に移す取組を行っている。</li> <li>・ストレスの項目は評定値2.57と低く、今後も教職員が安心して働くことのできる環境整備に努める必要がある。</li> <li>◇教職員の思いを反映できるよう行事やシステムの見直し・更新を進める。</li> </ul>	○	・先生方の笑顔がいつも素敵だと思います。元気でない笑顔はできません。 ・日々忙しい中で、職場環境に満足されている職員が多いことが素晴らしいです。 ・エンゲージメントを高める方策が大変参考になりました。 ・学校から不祥事が発生しないよう、職員間で内部コミュニケーションをしっかりとってもらいたい。	